熊本大学学術リポジトリ

烟波吟草五六 ： 文苑

著者	溪川生
雑誌名	龍南會雑誌
巻	５１
ページ	４９-５０
発行年	1896-12-05
その他の言語のタイトル	煙波吟草五六 ： 文苑
URL	http://hdl.handle.net/2298/4663

つれなきものは命なり。

かまくらやまのはし月夜、
　星とゐならぶひとゝの、
月のむしろにまじらひて、
　たちまふ人のうたてさよ。

さくと見しまにはやもちる、
　花にもにたる世のなかに、
なにをたのみに玉のをの、
　ながきさかえをねがふらむ。

怨　情

すだれかゝげてたをやめは、
　けふも終日ながめたり、
たれを去のぶのみだれかも、
　かぎり去られず見ゆるなり。

烟波吟草五六

獵矢ぬきつくしの海の磯のへにみさゝ飛ふなり射ん人もかな
投くる箭の遠さかり行けは阿蘇の山小手かさせとも今は見えなく

淋しき浦

溪　川　生

ちゝのみのちゝの去ことや、
はゝそばのはゝのみことや、
　たもよ父よとたづねわび、
淋しきうらにゆきくれて、
　よるべなぎさになき沈む、
わらはやわはれみるめかなしも。

荒野乃原

去らたまのわがてやいづら、
なよたけのわぎもやいづて、
　わぎもてあごよともとめわび、
あれ野のはらにゆきくれて、
　たづきもしらずたちまよふ、
をのてやあはれなみだぐましも。

たはろ〳〵汐霧こむる海中(ワタナカ)を呉越(ゴエツ)につゝく薩(サツ)の諸山
手をかさせは海山晴れて月もよし妻よふ千鳥その聲もよし
白雲の五百重(イホエ)かくれの山のへに君を思ひの雲もありけり
ゑゝくしろうまゐの夢を破られて角の音白し有明の月
春草のゑけき思ひも君ゆゑに萌えいてしとは知らてやあるらん

俳句

被露坊選

野分　満月の奈須野が原を野分哉　木岡
牛牽て月になる夜の野分かな　女月
菊　寒菊や氷うちわる杓の音　蕗塔
白菊や志賀の都のあれし跡　木岡
落葉　まつしぐら木の葉ちりゆく井の中　斬水
御手洗に落葉のたまる大社　木岡
夕ぐれて一葉ちけりわが庵は　女月
井　古井の中に尾花のみだれあいて　斬水
寒菊の一本咲きぬ井の中　女月
秋もやゝ井げたの苔の枯てけり　蕗塔
鹿　十月の山に鹿なく小家かな　女月
丸木橋なく〳〵鹿のわたるらめ　蕗塔